

6月22日全校朝会講話 ～スポーツのもつ力～

今世界では FIFA サッカーワールドカップが盛り上がっています。今大会は、アメリカ、カナダ、メキシコの3カ国で開催され、全48か国が出場しています。このワールドカップに出場するには、世界各地で開催される予選を勝ち抜かなければ出場できません。そう考えると、サッカーは世界中で大変人気のあるスポーツということになります。では、なぜ、一つのスポーツが世界中で親しまれるようになったのか、調べてみました。

ボールをけるという遊びは、2000年以上前から世界のあちこちにありました。日本でも平安時代に「けまり」というものがありました。でも、これらは今のサッカーとはちがいで、“蹴ってパスを続けること”を楽しむ遊びでした。

今のサッカーはどこで生まれたのかというと、イギリスだそうです。今から200年ほど前のイギリスでは、学校や町ごとにルールがバラバラで、手を使ってもいいサッカーやけるだけのサッカーなど、いろいろなサッカーがありました。これでは多くの人と一緒に楽しむことができません。そこで、1863年にイギリスで、「手を使わずに、ゴールを決める」といった共通のルールがつけられました。

その後、サッカーは、世界中に人々の行き来と共に広がり、1930年には第1回ワールドカップが開かれました。なので次回大会は100年となり、2大陸での同時開催が予定されています。

世界中の人があるスポーツに熱中できる。そこには、遊びの要素と世界的なルールの広がりがありました。

今年は、大きなスポーツイベントが続きます。スポーツのもつ歴史と人々の生活など、ぜひ身近なことに興味をもって、来たる夏休みの自由研究のテーマなどを考えてみてください。